

平成28年度第1回京都市男女共同参画審議会摘録

＜日 時＞ 平成28年7月20日（水） 午後3時から午後5時まで

＜場 所＞ 京都市消費生活総合センター 研修室

＜出席者＞ 委員 稲垣 眞咲（弁護士）
委員 大浦 啓子（市民公募委員）
委員 大島 龍（市民公募委員）
委員 葛西 順子（株式会社ワコール 執行役員人事総務本部ダイバーシティー・キャリア支援室長）
委員 佐伯 久子（京都市地域女性連合会会長）
委員 田端 泰子（京都橘大学名誉教授）
委員 筒井 淳也（立命館大学産業社会学部教授）
委員 三浦 晶子（京都府医師会理事）
委員 森実 賢広（京都新聞社論説委員）
委員 山森 亮（同志社大学経済学部教授）

＜欠席者＞ 委員 大西 芳秀（日本労働組合総連合会京都府連合会副事務局長）

＜傍聴者＞ 2名

＜議 題＞ 1 審議会役員の選任について
2 第4次男女共同参画推進計画「きょうと男女共同参画推進プラン」改定版について
3 第4次男女共同参画推進計画「きょうと男女共同参画推進プラン」重点分野の進捗状況について
(1) DV対策の強化
(2) 真のワーク・ライフ・バランスの推進
4 その他（事務局からの報告）
(1) 平成27年度推進事業報告書について
(2) 平成28年度推進計画について
(3) 女性の活躍推進について

3 内容（○：委員，●：事務局）

(1) 審議会役員の選任について

以下のとおり決定した。

会 長：田端 泰子委員（京都橘大学名誉教授）

副会長：佐伯 久子委員（京都市地域女性連合会会長）

副会長：筒井 淳也委員（立命館大学産業社会学部教授）

(2) 第4次男女共同参画推進計画「きょうと男女共同参画推進プラン」改定版について

○ 同プラン改定版26ページにある推進施策の下欄「(8) 高齢者，障害者，外国籍市民等に対する支援の充実」の中に，「性的指向や性同一性障害」についての記載がある。LGBTといった課題を男女の人権尊重に向けた啓発の対象とするのか。

- 広義的には、御指摘の課題も範疇に入ると考えるが、役所内部のどの組織がどのような施策を実施していくかについては、今後詰めていく必要があり、人権の所管課とも連携を図っていきたい。
- 男女共同参画にLGBTの視点は是非入れていただきたい。
- 個人が生き生きと暮らす条件として、「健康であること」「暴力から自由であること」「貧困でないこと」の3つが整ってこそ、自立した生活を送ることができる。これら3つの要件は重なり合って生じることの多い課題であるが、同プラン改定版に記載はあるのか。
- 御指摘の要件が複合的課題として明記されている箇所はないが、個別の課題としては記載されている。御指摘も念頭に置きながら、各施策を連携させて実施する必要がある。

(3) 第4次男女共同参画推進計画「きょうと男女共同参画推進プラン」重点分野の進捗状況について

ア DV対策の強化

- DV対策に力を入れているということだが、DV加害者から逃げている間に発生することもある、無戸籍児童の問題について聞きたい。民法改正で女性の再婚禁止期間が短くなるなどの対応もなされているが、京都市における取組を教えてください。
- 御指摘のような深刻な事例はDVセンターの相談からは出てきていないが、重大な人権侵害でもあることから、今後の取組は必要と考えている。
- DV被害を受ける方の年齢層は。また、男性のDV被害の状況はどのようなものか。
- 相談者の年齢層は20～30代が半分くらいである一方、DVと認識されないまま、夫との暮らしを受け入れていたという70歳代の方の事例もある。
男性のDV被害については、2割ほどが相手から実際の暴力を受けているケースで、その他、言葉やモラハラ等によるものがある。
- デートDV予防事業として、平成28年度にDVDを作成するとのことだが、何がDVであるのかということについて、教育を受ける機会はあるのか。
- 学校現場には、優先課題が他に数多くあり、男女共同参画については人権問題として取り上げていただいているが、デートDVまで扱われていない状況である。DVDには、DVの意味などにも触れていく。
- 市営住宅の優先入居について、入居件数が3件というのは少なく感じる。年4回の募集では足りないのではないか。
- 年4回ある市営住宅の一般募集に合わせて優先入居の募集を実施しており、募集回数をこれ以上増やすのは難しい。市営住宅が市の中心部になく、小さいお子さんの保育所を変えられないことなどから、実情としては、行政の支援を受けながらアパートなどを探される方が多い。
- 保育所の待機児童がゼロというのは、数字のうえの話であり、個別の声を把握する方法はあるのか。
- 隠れた待機児童の課題については認識しているが、まず国の認定基準の下での待機児童ゼロという数字を維持していくべきだと考える。市では、定員を100人単位で増やしたり、保育士の月収の上乗せをするなど、待機児童の解消に向け取り組んでいる。

イ 真のワーク・ライフ・バランスの推進

- 婚活事業について、成婚率等の実績は取っているのか。記念植樹の結果など、成婚等の結果についても、広く知らせるべきである。
- 記念植樹等の事業により、年に2、3組の成婚は確認できている。本市の事業は、出会いのきっかけがなく、はじめの一步を踏み出すことができない市民に対し、出会いの場を提供し、一步を踏み出していただくことを目的としている。アンケートでは、「初めての婚活だった。」、「これからも婚活をしていきたい。」という回答が多く、そういう意味での成果は出ていると感じている。

(4) その他（事務局からの報告）

ア 平成27年度推進事業報告書について

イ 平成28年度推進計画について

ウ 女性の活躍推進について

- 平成28年度推進計画について、延長保育や病後児保育の実現に向けた働き掛けをお願いしたい。
- 市長も、本市で働く多くの女性が従事する観光産業に言及し、働く女性へのサポートの重要性について話していた。離職率を下げる取組は重要であり、今後、取り組むべき課題と認識している。